

南方の正行なり、巳午南方に位するなり、西方申酉金也、生數四、戊土也、生數五、四與五相得爲九、故金成故に隸して共に火德を負たるなり、西方申酉金也、生數五、四與五相得爲九、故金成數九也、金は西方の正行なり、申酉西方に位す、中央戊己土也、生數五、兩五相得爲十、故土成數十也、土は中央の正行なり、そを金易に分け、また同書に、凡五行有生數壯數老數三種、木生數三、壯數八、土生數五、夫万物皆稟五常之氣、化合而生物、生之後必至成壯、成壯之後必有衰老、故有三種義也、五行のこと尙種々の説等有れど、此餘は都て取ず、そは方法とも聞えねばなり。

〔本朝世紀〕久安五年八月三日壬子、内府○藤原同成通右府○藤原被申云、美福門者南方門也、后是陰位也、陰是水也、南是火也、水火相剋、定爲違亂之基歟、加之伉儷之間、人有不和事歟、仍於美福門者、一切不可被用也、八條殿尤優歟、

〔台記〕保延二年十月十二日丙午、此間伊通談云、著座人踰官外記廳闕之時、思秋東二字之事、大外記信俊疑難云、秋自西來也、而東字相剋歟、不得心之由申也、

〔明德記上〕軍ハ廿七日○明德二ト定タリトイヘドモ、河内國ノ守護代遊佐河内守國長、十七所ニ城塹ヲ構ヘ、國々和泉紀伊國ノ軍勢通路難儀ニシテ、八幡ノ勢ゾロヘハサカリケレバ、合戰已ニ延引シテ、正月二日ト定メタリシ事ナレバ、其用意アリケル處ニ、峯ノ堂八幡ノ勢共、又ケルニ落、夜々ニ勢スクト沙汰セシカバ、年内ト明春ト、イヅレカ合戰ニ利潤有ベキトテ、召具セラレタリケル陰陽ノ博士ニ占ナハセラレケルニ、博士占形ヲ開キ、心靜ニ合戰ノ吉凶ヲ勘テ云、奥州ハ○山名水性、當氣ハ則冬也、去レバ水ハ王ニシテ、年内御合戰アラバ、治定ノ御勝トゾ勘申ケル、奥州、此事ヲ聞給、誠ニ快ゲニテ、サラバ諸方ノ責口ヘ、晦日ノ合戰ト相觸ヨトテ定ラレタリケルニ、此陰陽ノ博士、小林ニ向ヒ、内々侘事申ケルハ、合戰ノ吉凶ノ事仰下サレ候ニ依リ、勘文ノ趣ヲバ、大概ニ申上ツレドモ、夫占ト者、推條ヲ以本意トセリ、奥州水性ニテ御渡リ候間、冬ハ王ニシテ、御